

平成26年度 鳥取県公共事業評価委員会 質問事項等整理表

◇ 第4回(平成26年10月27日 開催)

【国道180号(福長～菅沢工区)防災・安全交付金事業】(調査審議での質問)

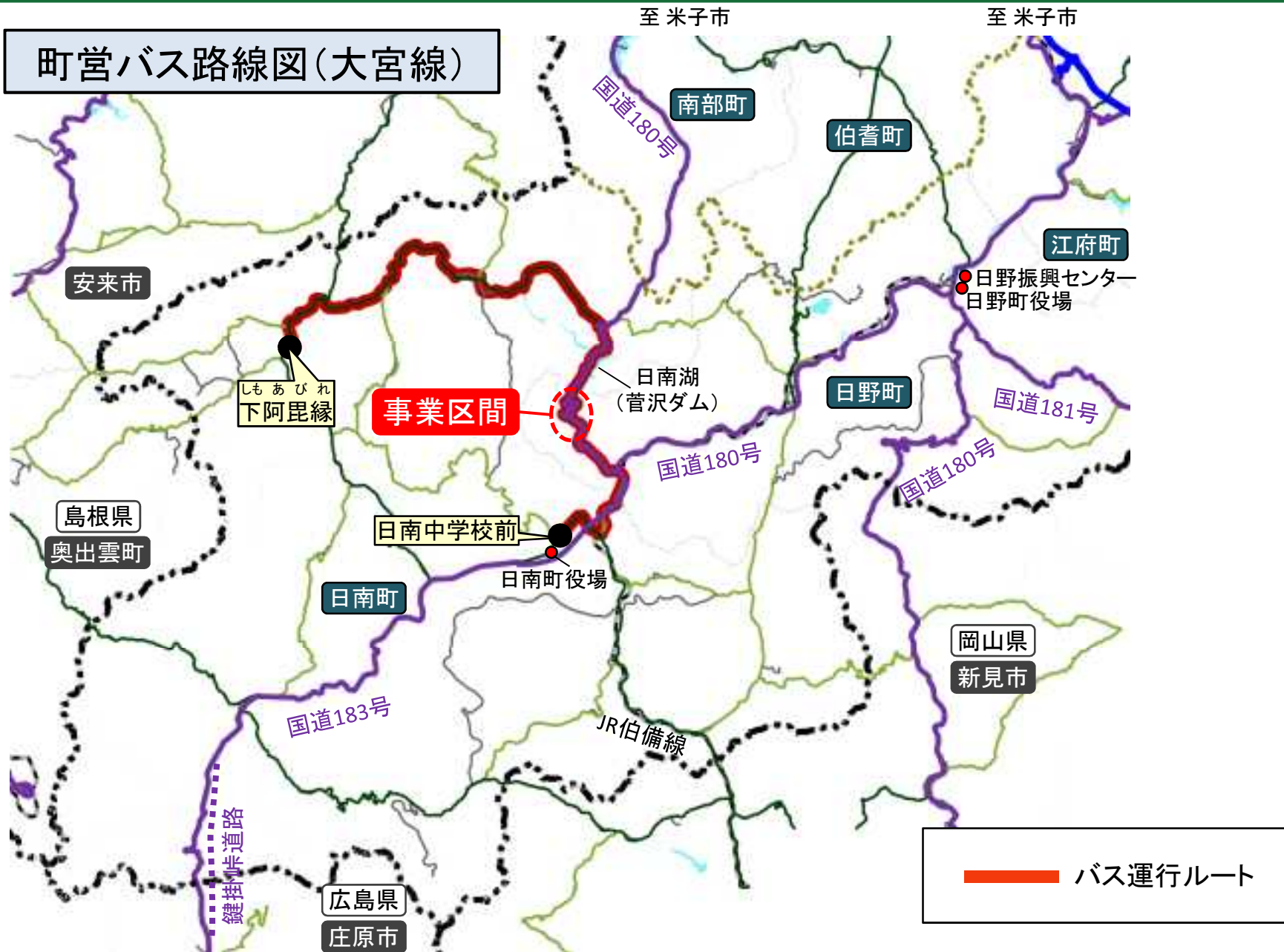
質問	質問内容	回答又は処理	摘要
1	ここは国道181号(佐川～根雨原工区)のようにJRはないが、路線バスは通行していないのか？	町営バスが運行している。以前は高速バスが通っていたが、現在は松江道を使っている。	
2	北側はどこまで運行しているのか？	次回委員会で回答する。	【宿題】
3	米子からここへ至るまでのルートも狭かった。直すなら徹底的に直す方がいいと思った。	大木屋地内で工事による片側交互通行をしていたからだと思う。概ね片側3mの道路が整備済である。	
4	現地視察の時にかなりトラックが走っていた。生活道なのか、大型車が多いのか？	手元に資料がないため不明。	
5	ここを整備しても積雪時は通れるのか？	現在も除雪をしており、冬期も通行可能である。	
6	除雪は町が行っているのか？	直営や業者委託、町との業務分担などやり方が様々あり、次回委員会で回答する。	【宿題】
7	この路線の災害危険箇所は、他にはないのか？	特にこの区間が多い。事業区間内に鳥取県西部地震で大きく崩落した法面もある。	
8	国道181号(佐川～根雨原工区)と推計交通量の整合がとれているか？	イコールではないが、概ね整合がとれている。どちらもH42年の事業化ネットで推計している。	
9	B/Cは計算していないのか。	現在算定中である。次回委員会で説明する。	【宿題】
10	国道181号(佐川～根雨原工区)のように現道活用したルートを検討する余地はないのか？	起終点の高低差が100m程度あり、縦断勾配を緩くするためにはバイパスにならざるを得ない。	

一般国道180号 (福長～菅沢工区)

平成26年度公共事業評価委員会(第5回)
説明資料

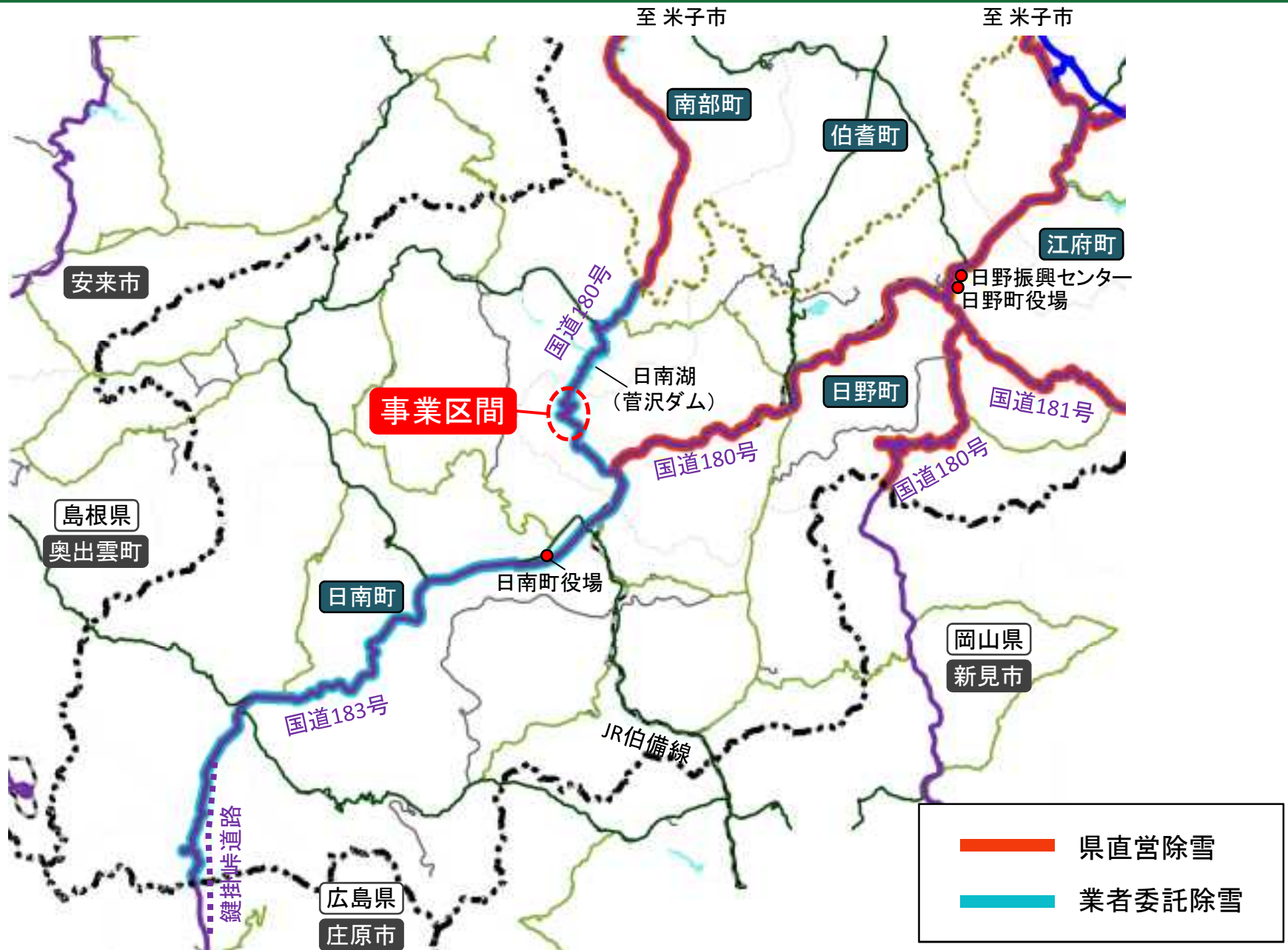
1. バス運行ルート

国道180号(福長～菅沢工区)



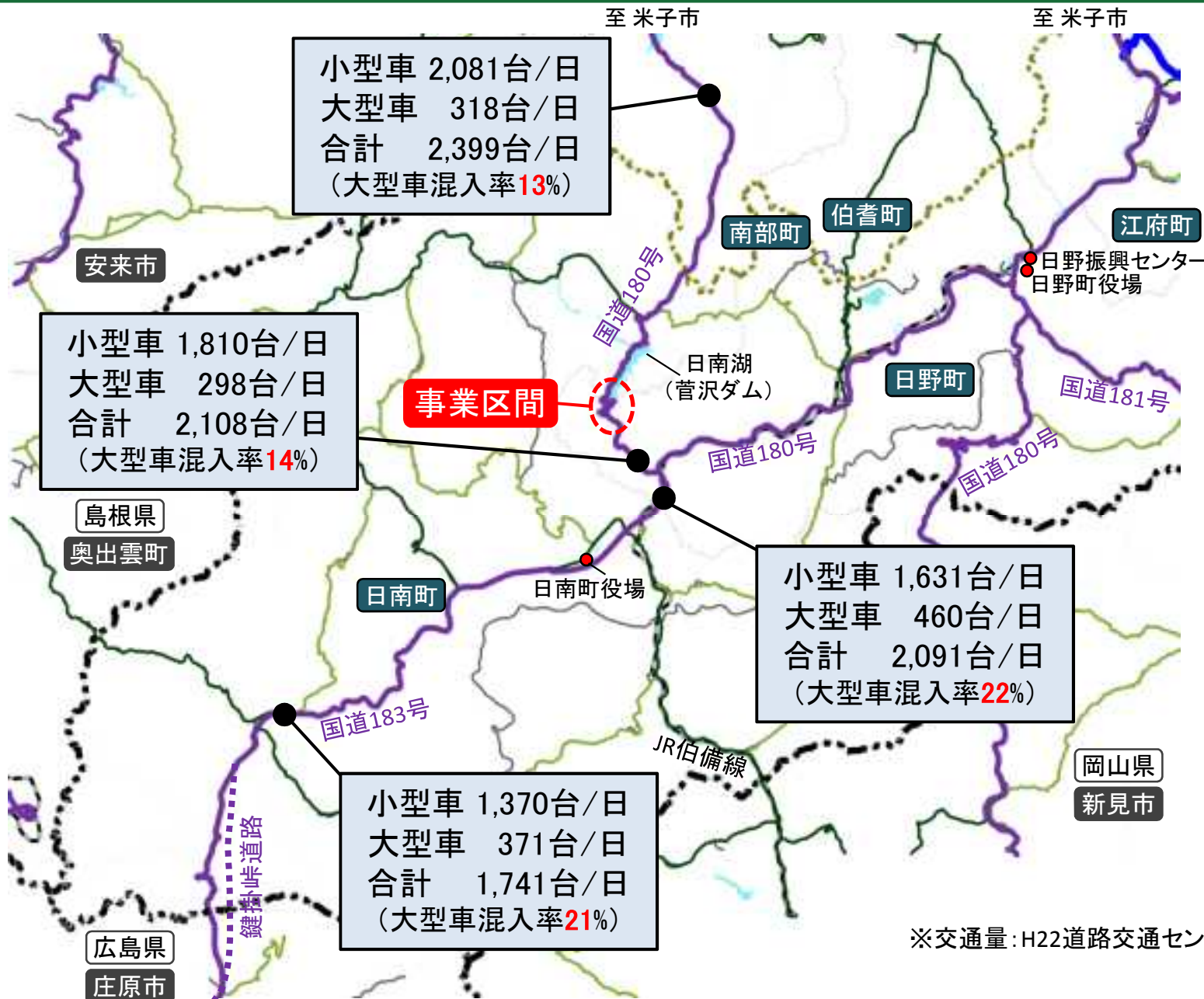
2. 除雪体制

国道180号(福長～菅沢工区)



3. 大型車交通量

国道180号(福長～菅沢工区)



※交通量: H22道路交通センサスより

4. 隘路区間

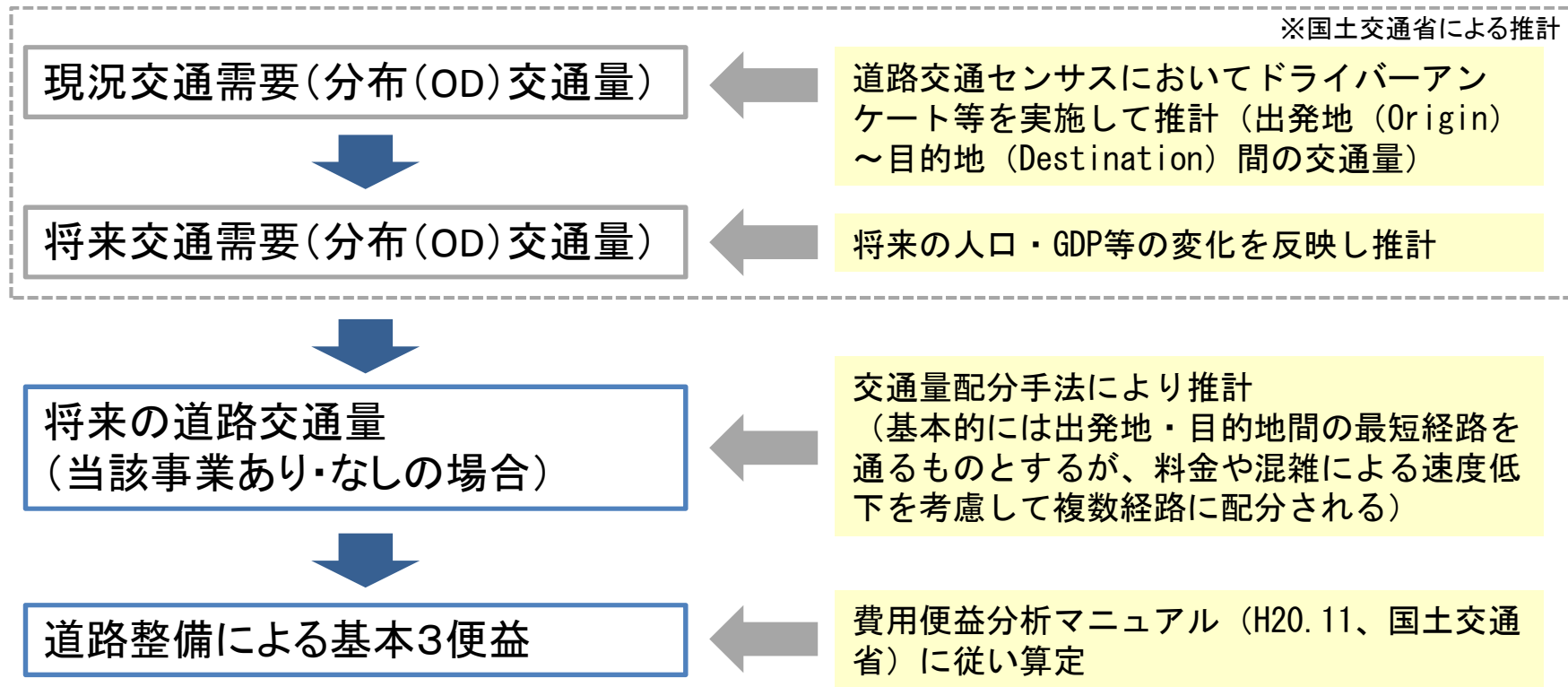
国道180号(福長～菅沢工区)



5. 基本便益分析

国道180号(福長～菅沢工区)

○基本便益の算定フロー



走行時間短縮便益	道路各区間の走行時間に時間価値原単位を乗じて走行時間費用を算定
走行経費減少便益	燃料費、油脂(オイル)費、タイヤ・チューブ費、車両整備(維持・修繕)費、車両償却費等を対象に走行経費を算定
交通事故減少便益	交通事故による社会損失額(人的・物的損害額、事故渋滞損失)を算定

※それぞれ、総走行時間費用・走行経費・事故による社会損失について、道路整備がある場合とない場合との差を便益として算定。

6. 基本便益分析結果

国道180号(福長～菅沢工区)

○費用便益分析結果(基本便益のみ)

基準年		H26	
供用年		H41	
延長		2.2km	
設計速度		50km/h	
将来交通量(H42)	整備あり	180台/日	
	(整備なし)	160台/日	
費用	事業費	39.89億円	
	維持修繕費	1.28億円	
	計(C)	41.17億円	
便益	基本便益	走行時間短縮便益	6.01億円
		走行経費減少便益	2.49億円
		交通事故減少便益	0.64億円
	計(B)	9.14億円	
費用便益比	(B/C)	0.22	

※費用および便益の値は、基準年(H26)における現在価値。

7. 拡張便益分析

国道180号(福長～菅沢工区)

○拡張便益として計上した項目

分類	効果項目	概要
生活機会 増大効果	片側交互通行規制による時間損失	災害・防災対策工事等による片側交互通行発生時に遅れが生じているものが、道路整備により解消される時間損失分を計上
	異常気象時通行不能区間の解消	異常気象時通行不能区間が解消されること(存在価値)に対する安心感向上の効果を計上
	大型車すれ違い困難区間の解消	大型車すれ違い困難区間が解消されること(存在価値)に対する安心感向上の効果を計上
	通行危険箇所の解消	通行危険箇所が解消されること(存在価値)に対する安心感向上の効果を計上
	冬期の速度低下解消	道路整備後に、冬期の走行速度低下の割合が小さくなることを貨幣換算し計上
	救急搬送における救命率の向上	救急医療施設への所要時間短縮による救命率向上の効果を計上
地域活性 化効果	季節的に流入する観光客が受ける便益	道路整備により季節的に流入する観光客が受ける時間短縮と走行経費減少効果を計上
	公共施設・生活利便施設へのアクセス向上	1時間以内にアクセスできることで気軽に大規模店舗や文化ホール等にアクセスできる価値
環境質の 改善	CO2排出量の削減	走行距離の短縮および速度向上によるCO2排出削減効果を算出する
	NOx排出量の削減	走行距離の短縮および速度向上によるNOx排出削減効果を算出する
その他	現道対策として必要な防災対策事業費の削減	整備が無い場合に、現道の防災対策として必要となる事業費の削減
	現道の維持管理費用の削減	整備後における、現道の維持管理費用の削減

8. 拡張便益分析結果

国道180号(福長～菅沢工区)

○費用便益分析結果(基本便益+拡張便益)

費用	事業費		39.89億円
	維持修繕費		1.28億円
	計(C)		41.17億円
便益	基本便益	走行時間短縮便益	6.01億円
		走行経費減少便益	2.49億円
		交通事故減少便益	0.64億円
	基本便益 計(B1)		9.14億円
	拡張便益	片側交互通行規制による時間損失	0.42億円
		異常気象時通行不能区間の解消	7.27億円
		大型車すれ違い困難区間の解消	7.41億円
		通行危険箇所の解消	6.12億円
		冬期の速度低下解消	2.25億円
		救急搬送における救命率の向上	7.64億円
		季節的に流入する観光客が受ける便益	0.07億円
		公共施設・生活利便施設へのアクセス向上	6.28億円
		CO2排出量の削減	0.07億円
		NOx排出量の削減	0.001億円
		現道対策として必要な防災対策事業費の削減	1.30億円
現道の維持管理費用の削減	1.58億円		
拡張便益 計(B2)		40.41億円	
費用便益比	基本便益 (B1/C)		0.22
	拡張便益 (B2/C)		0.98
	基本便益+拡張便益 (B/C)		1.20

※費用および便益の値は、基準年(H26)における現在価値。